

<福島県納税貯蓄組合連合会長賞>

正しい教育・情報・知識

～納税と使途～

白河市立白河南中学校

3年 せきね しほ
関根 志帆

この作文を書くにあたり、要綱の趣旨の欄を見るとそこには次のようなことが記されていた。「人間性豊かな美しい『福島県』を築くことは、県民すべての願いであり、県や市町村の大きな仕事である。そして、これらの仕事を進めていくための財源が税である。」

私は10年後、正にこの「税」に携る職業、具体的には税理士になりたいと強く思っている。2才年上の兄の影響を受けて――。

今、兄は高校2年生。私の第一志望校は、兄の通っている高校だ。

私たちの暮らしは、「税」によって支えられている部分が非常に大きい。今まであまり意識してこなかったが、学校の授業が無償であるのもこの「税」のおかげだ。なぜ、そこに「税」が使われるのか。私なりに考えてみた。それは、そうすることが必要だからだろう。もし、そうでなかったら……。貧富の差などによって教育等に絶対的な不平等が生じてしまうだろう。また、本来、優秀な人材が埋もれてしまい育成されず、結果、市町村、都道府県、ひいては国にとってマイナスということにも――。私たちは「税」によって育成されている。投資されていると考えることもできるだろう。よって、私たちは将来、その分、否、それ以上のものを市町村、都道府県、国にかえすのだという強い気概をもって学校の授業に取り組まなければならない。

今、一生懸命勉強して、社会に出たら人の何倍も稼ぎ人の何倍も税金を払えるような人になりたい。社会の役に立ちたい。「社会の役に立つ人間になりたい」と思う人はたくさんいるだろう。それは、何も難しいことではなく、間接的に目に見えない形で実行することによっても実現できる。「納税」のような形で――。目に見える部分だけがもてはやされ、目に見えない部分は忘れさられがちである。また、教育が不十分で知識が乏しいと見通し・

選択・処理・対応等全てにおいて誤る。「税」についてもそうだ。知識がないと「税＝悪者」となってしまう。でも、本当は違う、本当は「税＝正義」だ。これはこわいことだ。本当は「善」であるものが「悪」となってしまうのだから。そうならないためには、私はやはり、正しい教育・情報・知識が何よりも大切だと思う。

私は税理士になりたい。それはとても大変なことだということはわかっている。でも、なりたい。「税金のプロ」になりたい。20年後、人間性豊かな美しい「福島県」を築くために、税理士として人々をそのような方向にもっていけるような人間になりたい。そのためにも、まずは志望校に合格できるように残りの夏休み、誰にも負けないくらい気合を入れてがんばろう。